

巻頭によせて

院長 丹野三男

昭和34年4月発刊の仙台市立病院医誌は一時休刊されていたが、昭和55年7月、仙台市立病院医学雑誌として再刊され、このたび第5巻が世に出ることになった。

最近の医学情報、医学雑誌の量は極めて膨大なものである。

世界中の殆ど重要な医学文献を収録している Index Medicus の重量を年次的に測定して、その重さから医学情報量の増加を推定しようとした興味ある論文が、New England Journal of Medicine の298巻、14号、773頁（1978年）に記載されている。

即ち著者の David T. Durack 等によれば、1879年の Index Medicus の発刊以来、10年毎に区切って本誌の重量を測定してみると、初めの60年間即ち1939年迄は2kgの増加でしかなかった。

その後1940年頃から増加し、1946年から1955年の10年間は4kg、次の1965年迄は14kg、更に1975年迄には30kgの増加であったということである。

又わが国に於ても現在1682種類の医学雑誌が刊行されているといわれる。

今日、私達はこれ等の莫大な文献を適切に選択して、医学の進歩におくれないように努めなければならないわけである。

最近、medical audit、医療評価ということが提唱されている。

病院医療を総合的に、客観的に評価し、医療の質を高めようとする意図である。

その評価の項目としては病床利用率、平均在院日数、死亡率及び死亡例の検討、剖検率、対診率、院内感染防止対策、合併症併発の有無、不必要手術の有無、診療協議会の頻度、病歴整理等があげられているが、学会発表や論文掲載もその重要な要素であることは言うまでもない。

本医学雑誌の内容も貴重な文献として多くの人々から参照される珠玉の一編であることを念じ、巻頭の言葉とする次第である。